（様式1）

平成２４年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号） 014	**提案機関名**	県央地域県政総合センター

要望問題名　茶の成長に伴う放射性物質（セシウム）の動向

要望問題の内容　【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】

茶産地において、新茶から放射性セシウムが検出されたが、放射性セシウムの半減期が約30年と長いため、影響の長期化が心配されている。

今回、放射線量を調査していない「幼木」を中心に、長期に渡り放射線量の経時変化を調べること等により、いつまで影響が続くのか調査することが必要である。

（県央管内茶産地は相模原市、厚木市、愛川町、清川村の2市1町1村、合計摘採面積は約30ha。
統計は平成18～19年産以降、市町村別データ公表が無いため、現時点の市町村別は不詳
統計18～19年産摘採面積：相模原市20ha、厚木市3ha、愛川町0ha、清川村9ha）

解決希望年限	①1年以内　[②2～3年以内]　③4～5年以内　④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	[①農業技術センター]　②畜産技術所　③水産技術センター ④自然環境保全センター
備　考	放射線量測定について、衛生研究所との連携をお願いします。

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	**担当部所**	北相地区事務所研究課

対応区分	①実施　[②実施中]　③継続検討　④実施済　⑤調査指導対応　⑥現地対応　⑦実施不可

試験研究課題名　（①、②、④の場合）

1．茶園における放射性セシウムの動態解明と対策技術の開発

（1）茶樹における放射性セシウムの動態解明

対応の内容等

研究内容として、以下の課題を実施しています。

① 樹体部位別の放射性セシウムの量的解析

② 安定同位体セシウムを用いた茶樹体内におけるセシウムの移行経路の解明

③ 被ばく茶樹における摘採時期別の放射性セシウム濃度の経時変化の把握

これらの結果から、茶樹体内における放射性セシウムの動態を明らかにするとともに、茶葉に蓄積された放射性セシウムの経時変化を明らかにします。

解決予定年限	①1年以内　[②2～3年以内]　③4～5年以内　④5～10年以内
備　考	